

# 書窓

## Shoso

No.427

2020.12

太子町立図書館 編集発行

〒671-1561  
兵庫県揖保郡太子町鵜  
1310 番地 7

Tel (079)277-1580  
Fax(079)277-5684

### 子どもの本だな 85

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

#### 名馬キャリコ

バージニア・リー・パートン エ・ぶん  
せたていじ やく (岩波書店)

西部サボテン州のカウボーイ、ハンクの馬はキャリコという足の速い賢い馬でした。サボテン州は平和で、皆のんびり暮らしていました。あるとき、悪漢スチンカー一味に牛を次々と盗まれます。キャリコは体じゅうを泥だらけにしてスチンカーの馬になりすまし、スチンカーのあとを嗅ぎ、隠れ家にやってきました。スチンカーがキャリコにまたがったとたん、岩から岩へ。川を渡り、あつという間にハンクのもとに戻ってきました。賞金を手に、ハンクは子どもたちへのクリスマスプレゼントを買いに町へ出かけます。そのすきに、スチンカーは脱獄し、荷物を積んだハンクの馬車を待ちぶせしました…。

ダイナミックな版画とテンポの良い文章は物語の展開にぴったりで、開拓時代のアメリカの生活をかいま見、楽しむことができます。読んでもらえば4～5歳から。(西村)

#### 名犬ラッド

A. P.ターヒューン 作  
岩田 欣三 訳 (岩波書店)

ラッドは、純血種として姿が美しいだけでなく、誠実で勇気があり、愛情深いコリー犬です。飼い主の主人夫妻に忠誠をつくし、一度言われたことは確実に覚え、常に弱いものを守ります。ある日、お客として滞在していた、病弱で歩けない5歳の少女が、毒蛇に襲われそうになります。ラッドは少女をくわえて安全な草むらへ投げ込み、蛇におどりかかって切り裂きました。少女の母親は犬が娘を襲ったと思い込み、ラッドを傘の柄で力いっぱい殴りつけます。ラッドをかばい、母親を止めようとして、少女は自分の足で立ち上がり、歩きだしました。目の前の奇跡に皆は驚きますが、その時既にラッドは蛇にかまれ、致命傷を受けていたのです…。

他にも、都会で主人とはぐれ、野生の勘を働かせて自力で邸に帰り着くエピソードや、大好きな女主人が病気で生死をさまよっている間中、飲まず食わずで部屋の外にすわりこむ話など、ラッドの賢さや勇気、忠誠心あふれるエピソードが、次々と語られます。12歳くらいから。(池田)

12月	1月	12・1月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
3日	7日	塚森 地域内 10:30～ 10:50	沖代 地域内 11:00～ 11:20	福地(三反長) 地域内 14:30～ 14:50	米田 公会堂 15:00～15:20	竹広南 公民館 15:30～15:50
10日	14日			原池団地 公民館 15:00～ 15:20	山田 掲示板前 15:30～15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00～16:30
17日	21日	広坂 公民館 10:30～ 10:50	上太田 公民館 11:00～ 11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30～15:50	吉福 公民館 16:00～16:30

#### <お知らせ>

#### ☆ クリスマス

#### おはなしの時間 ☆ 三

12月19日(土) 11:00～

北欧の昔話

「屋根がチーズでできた家」

他に、クリスマスの絵本を予定し

ています。

★4歳以上、大人まで入れます

★申込が必要です

# 『デジタルで読む脳 紙の本で読む脳』 「深い読み」ができるバイラシー脳を育てる

メアリアン・ウルフ 著

大田 直子 訳

インターシフト

293 頁

2020 年 2 月刊

いま、私たちの文化は、生活も教育環境も急速にデジタル化が進み、大きな転換期を迎えている。否応なしに押し寄せられるデジタル情報の量とスピードに追われ、戸惑いを感じつつも、それはもはや不可欠だ。著者は「デジタルと紙の本を読むときのヒトの脳の働きの違いを知り、デジタルの時代に合った読む力を育てるにはどうすべきかを考えよう」と読者への手紙に綴る。

読むとは思考することだ。背景知識を活用して推測する。分析し、理解する。他者の世界に移入し、共感する。それらが著者の言う「深い読み」で、自身の考え方の礎となっていく。紙の本をゆつくりと集中して深く読む経験を積んできた著者は、いつしか自分が読めなくなっていることに気付き動揺する。せわしなくデジタル生活を送るうちに、注意散漫に情報の上澄みだけをすくう読み方をするデジタル脳に変化していたのだ。

著者は「読字脳」を専門とする認知神経学、発達心理学者だ。文字を読むときの脳の複雑な働きを、サーカスに譬えた解説には驚くばかりだ。そもそも読字は、発語のように先天的に備わっているものではなく、後天的な学習環境によって脳に新しい回路を加えて構造を変化させ、各人固有の読字脳が形成されるのだという。読字脳が形成されていく幼児期に、読む内容・媒体・環境は重要だ。デジタル時代に育つ子どもたちのために、親や教育者は何を理解して、いっどうすべきなのか？大人は何をどう読むべきか？各媒体の特徴を知るために、同じ文章を紙とデジタルで読んだときの感情や理解度の違いを検証した研究結果も興味深い。

また、文中に図書館でも人気の絵本の描写や、文学の登場人物、実業家の言葉などが散りばめられているのも楽しく、読後、それらを求めて思わず本棚に手がのびた。(秋澤)

## 12月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
		×	2	3	4	5
6	7	×	8	9	10	11
13	14	×	15	16	17	18
20	21	×	22	23	24	25
27	28	×	29	×	30	×

## 1月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
					×	×
×	4	×	6	7	8	9
10	11	×	×	14	15	16
17	18	×	20	21	22	23
24	25	×	27	28	×	30
31						

- \* カレンダーの×印は休館日  
12/28、1/29 は館内整理日  
12/29～1/3 は年末年始  
1/13 は祝日の振替
- \* 年末年始、返却ポストは使えません
- \* 開館時間は 10:00～18:00  
金曜日は 20:00 まで開館

## 地下水

日増しに寒さがつのり、すっかり冬の季節になった。今年も残すところ1ヶ月を切り、月日がたつ早さを実感する。今年はコロナウイルスによって社会全体の生活様式が大きく様変わりした。感染対策や外出自粛、毎日のようにコロナ関連のニュースが流れ、いわゆる「コロナ疲れ」もやむなしという状況である。

しかし、2020 年は決してコロナだけの年ではない。直近では11月に野口聡一さんを乗せた民間宇宙船が打ち上げられたニュースが記憶に新しい。このフライトで打ち上げられた宇宙船は、一般人が乗ることを想定された作りとなっている。居住性の重視や打ち上げコストの大幅削減など、宇宙旅行の実現に一步近づいたと感じさせてくれた。また、同月に柳美里さんの小説『JR上野駅公園口』が全米図書賞に選ばれた。アメリカの権威ある文学賞に日本人作家が選出された事実は、本好きとして大変うれしい出来事であった。

コロナ以外のニュースに目を向けると、多くの方がコロナ禍に負けず、目標に向かって奮闘していることが分かる。こうした姿に活力を貰いながら、自分もコロナに負けないよう日々の業務に勤しみたい。(光藤)